

## 教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和7年12月18日(木) 第4委員会室
2. 出席委員 前田智永委員長 國利知史副委員長 近藤久子 岡野茂 青山学 松森潤平
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件
  - 1 所管事務調査の今後の進め方について
  - 2 その他

-----  
午前10時00分 開 議

○前田智永委員長 教育民生常任委員会を開会いたします。本日の出席議員は全員であります。本日の会議において、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

### 1 所管事務調査の今後の進め方について

○前田智永委員長 それでは、協議事項1点目といたしまして、所管事務調査の今後の進め方について協議します。まず、教育条件整備についてです。先日も少し協議しましたが、まだ担当課と話ができていませんので、また改めて学校訪問等、いろいろと話をした上で皆様にお示しします。松森議員が一般質問で学校給食について取り上げてくださって、教育長自ら一緒に給食を食べましようと言ってくさって、その後、担当課とも少し話をし、本委員会ですういった機会を設けてはどうかという話をしてくささいました。これについても話を進めていければと思ひますので、よろしくお願ひします。次が、男女共同参画についてです。24日に男女共同参画プラン策定推進委員の皆様が集まられて、我々も行った日本女性会議の報告等も行われるとのことですので、そちらの皆様と意見交換をしながら今後の庄原市の男女共同参画をどうしていくのかといった話もできたらいいかなと思ひまして、委員長の独断で申し訳ないのですけれども、そういった会を設けます。皆様、クリスマスでお忙しいことと思ひますが、ぜひともお集まりいただければと思ひますので、よろしくお願ひします。そして、健康寿命の延伸についてです。本日はこの点をメインに話をしていければと思ひます。前回の会議で、行政視察等も視野に入れて他市町の事例をそれぞれで調べてこようという呼びかけをささせていただきます。定例会中で一般質問等もありましたので、皆様いろいろとお忙しかったと思ひますけれども、もしここがという事例があれば発言していただきたいのですが、いかがでしょうか。近藤委員。

○近藤久子委員 担当課の保健師の方たちのお勧めでこういふところが、全国規模の賞を受けておられるところで行きやすいところがあれば県内でも、遠くに行く必要がなければそこに決めればいいのか。資料だけでは分からない熱意とか生の声というのもまた次につながるかなと思ひますので、県

内で調べていただければ。

○前田智永委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 以前、気になるデータがありまして、高齢者の方が元気で生きがいを持って暮らしている環境は何なのだろうかということで調べたものがあつたのですけれども、1つは図書館があることで、もう1つは公園が整備されていること。それと、安全なまちというのがいろいろなビッグデータというか、それで浮かび上がってきたのだと。要は、生きがいをもって自発的に外に出たり刺激を受けたりということだったのですけれども。何かそういった、シルバーリハビリ体操という自らが取り組むこともですけれども、健康に生きられる環境という面も少し探ってみればどうかと思います。まちの名前は忘れたのですが、もう1つは、独り暮らしの人で外に出たがる人。いろいろなことに興味を持って出る人が健康で生きがいを持って暮らせるというのがありました。夫婦よりも独り暮らしが。ただ、それは全然出ない人と2つに分かれるのですけれども。そういうデータ、外的な要因も何か少し参考になればと思います。

○前田智永委員長 國利副委員長。

○國利知史副委員長 私もいろいろ調べた中で、岡野委員が言われたように、生きがいというか、楽しみながら自発的に動いていけるようなことをしていけないといけないなと思います。そういった中で、いろいろ見てみると、山形市がやっている事業で「SUKSK (スクスク)」という事業があります。これはホームページにも出ていますけれども、例えば、シルバーリハビリ体操に行ったら何ポイントもらえる、アプリで歩数計とかそういったものと連動させて何歩歩いたら何ポイントもらえるというように、身体活動をすることによってポイントがたまって、それで地域の特産品とかがもらえるのではなく抽選に参加する権利がもらえるような感じの事業をされていて、庄原に置き換えてみると、例えば、「なみか・ほろか」のポイントに還元されるとか、身体活動をするによってたまったものがポイントに還元されるとか、財源が必要になるとは思いますが、山形市は結構大きいまちなのでそういったことができるのかなと思ったのですが、そういう楽しみながらできること。山形市に関しては、企業ごとに参加する部門もあって、企業として何歩歩いたのかがランキングで出るようになっていて、企業の健康づくりにも寄与している事業なのかなと思って、ここは見てみても面白いのかなという印象を持ちました。

○前田智永委員長 山形市の人口規模はどのくらい分かりますか。以前も本委員会で行政視察に行かせていただいて見て帰ったけれども、人口規模が違い過ぎたり、バックグラウンドがあまりにも違い過ぎて参考にならない事例もあつたので。

○國利知史副委員長 23万人です。

○前田智永委員長 規模が大きいですね。國利副委員長。

○國利知史副委員長 私もそこがすごく気になっていて、総務常任委員会で、指定管理についての視察で大坂城公園に行ったのですが、規模が大き過ぎて、イメージが全然違ったということもあつたし、その辺も考えて動かないといけないのかなとは思っています。

○前田智永委員長 ポイント付与でいいますと、本市ではシルバーリハビリ体操をしていますけれども、県内では熊野町もされています。すごく先進的にされていて、それこそ、ポイント付与をしながらシルバーリハビリ体操を上手に回しておられる、みんなで盛り上げておられるという話も担当の方々とさせていただいたので、冒頭で近藤委員が言われた、県内でということという熊野町もいいのかな

と私の中では思ったりしたのですけれども、山形市に限らず先進地は実際に見ると違うので、どちらの視野も持ちながら、しっかりと調整したいと思うので、ぜひいろいろと情報を集めてください。近藤委員。

○近藤久子委員　日本で健康寿命の長いところのデータが出るわけです。以前、委員会で、日本一はどこかなと。長野がいいね、滋賀も追いついてきたね、滋賀が追い越そうとしていると。それで、長野市に行きました。それこそ、先ほど言われたように、人口規模が大き過ぎて、コンビニとタイアップして減塩の弁当をされているとか、長野は盆地ですから、長生きの秘訣はみんな畑仕事をされているねということになるわけです。人口規模のことはすごく引っかけるところがあって、庄原市に即取り入れられるところを視察したほうが、これは本市でもできるなというところを取り入れる観点も必要かなと。それだけではいけませんけれども。それと、実際に、健康寿命の延伸は庄原市の保健師の方々も一生懸命されているわけで、デイサービスについても、そういう内容も組み入れて常に毎月1回しています。そういう、庄原市の健康寿命の延伸について今どのような取組をしていますというのをまず知ってから、プラスアルファでできる可能性がある点、バージョンアップできる点を模索していけば少しずつ確実に積み上げることができるのかなと。理論上だけで幾ら議論しても、実際に動いていただけの方、動く市民が納得できるような報告書ができればいいなと思います。熊野町の話が出ましたが、熊野町は小さな町で、本当に一生懸命、小さいからできることもあるだろうし大きいからできることもあるのだろうけれども、庄原市で取り組める内容をぜひ聞きたいなと思います。

○前田智永委員長　岡野委員。

○岡野茂委員　ポイント付与でキャッシュレス決済推進協議会が、例えば、自治振興区とかに付与のお金を幾らか出してくれます。高自治振興区の場合は、ボランティア活動や各行事に参加すると必ず付与しています。そういうところが結構、例えば、東城の自治振興区の中にもあるし、庄原地域の中にもあるのですけれども、そういうことが行われているということと、もう1つは、教育委員会の生涯学習の中で、スポーツ活動、文化活動、シルバー人材センターのような能力を生かしていこうという活動がされています。それは健康寿命を延ばすためにしているわけではないのですけれども、保健の部門と生涯学習の部門、あるいは高齢者の生きがいの部門がもう少し目標を持って、横のつながりで、市民のスローガンとして進めていけるような連携もあってもいいのではないかと。そういう現状も情報収集してみればいいなと思います。

○前田智永委員長　今、本市の中でそういう横の連携ができるところはあります。先ほど言われた自治振興区へのポイント付与についても、連合会でしっかりとそういう話をされて、自治定住課を先頭にみんなで取り組んでおられるので、そういったところとも連動すればいいなと思います。確か、農業と健康寿命というのはどうなのかなとどなたかが言ってくださったと思うので、國利副委員長でしたかね。土をいじるとか、高齢者とかだけではなく、若い人も含めて、本市の基幹産業である農業との連動も1つ考えられるのかなと今話を聞きながら思いました。岡野委員。

○岡野茂委員　農業は私も賛成です。庄原市の農業施策は、小さい農業をしている方は相手にされていないのです。認定農業者、法人は相手にされて補助事業等を受けられるのですけれども、多くの、自分の畑でつくって自家消費する、あるいは市場に出したりするクラスの農業は、施策としては支援がないのです。ですが、逆に言えば、そういう人たちは、農業の施策として捉えるのではなく生きがいづくりとして捉えて振興していくべきだと思います。なので、健康寿命の延伸とは言わなくても、生

きがいを持って生き生きと生活するという面で、振興するいろいろな事業は考えられますので、していただけるようなことも健康寿命で少し提案できればいいかなと思います。

- 前田智永委員長　　こういったいろいろな協議をしながら模索していければと思うので。國利副委員長。
- 國利知史副委員長　　今後の進め方としては、近藤委員が言われたように、高齢者福祉課を中心に市内でいろいろな健康寿命の延伸についての活動を、シルバーリハビリ体操などをされていると思いますけれども、私は実際にどういことをされているのか見たことがないのです。シルバーリハビリ体操に限らず、そういう健康寿命の延伸を目的に本市でされている活動の状況を1回視察して、まず先にそれを見に行ったら後に、それにプラスして、先進地はどういことをしているのだろうかということ、本市と先進地をどちらも見るのが大切なのかなと思いますし、本市が行っている取組は結構広いと思います。横断的にという話があったと思いますが、例えば、小学校でも体育を推進しているところで、論文も出ていますけれども、年を取っても運動をし続ける人は幼少期に運動をしていた人が継続して運動をする確率が高いというデータがあるので、子供のときにスポーツに取り組むことはすごく大事なことから、岡野委員が言われた、本来なら健康寿命の延伸としてトータルで考えていかないといけないことなのだけれども、そこまですると少し広がるから、まずは高齢者福祉課の管轄の活動を見て、それから全国の事例を見るという方向性でもいいのかなと感じました。
- 前田智永委員長　　多分、本市の中でどのくらい見たことがあるのか、参加したことがあるのかというデータはありませんけれども、そういうことを考えてみると、大半が見たことがない、参加したことがないという方なのかもしれませんね。そういった意味では、そういう機会を持つこともいいことかなと思うので、担当課と話をしてみます。岡野委員。
- 岡野茂委員　　本委員会で健康寿命の延伸というテーマが挙がって、どのようなことが提案できるのかなとすごく悩みました。ストレートに健康寿命を延ばそうというシルバーリハビリ体操のような活動は保健医療課が担当していると思いますが、横断的にということで、生きがいとして取り組めるものも少し横のつながりを持たせるような、あるいは、例えば、ウォーキングコースがそれぞれの地域にあるのですけれども、もう一遍ブラッシュアップしてみることも含めて本委員会として提案できればいいのかなと。有意義な提案になるのではないかなと思います。そういう、生きがいの要因、環境整備のようなことも含めて提案ができる方向でまとめればいいのかと思います。松森委員。
- 松森潤平委員　　いろいろ御意見が出ていますけれども、先ほどの國利議員の話に戻らせていただきますが、庄原市健康づくり推進計画を見ると、歯と口の健康という項目があって、先ほどの庄原の現状を見るという話で、この問題についてどういった取組をされているのかが私も分からないところがあったりして、今話を聞いて、高齢者目線になっていますけれども、健康寿命の延伸ということで、本当に健康は、小さい頃からそういうことに気をつけていないとなかなか長生きができないということもあたりするので、広くはなりますが、そういった歯と口の健康についても、どう進めればいいのかは、今はなかなか言えないのですけれども、注目してもいいのかなと思います。
- 近藤久子委員　　口腔ケアですね。庄原赤十字病院の方を呼んだりして研修会をされています。東城の100円サロンではちょくちょくありますけれども、とても大事なことです。
- 前田智永委員長　　岡野委員。
- 岡野茂委員　　すごく大事なことだと思います。口腔衛生ですが、社会福祉協議会の職員の中にも歯医者資格を持った人がおられて、口腔衛生の話をいろいろと地域でされていますけれども、病気の元

は口からのようなので、そういうことも合わせて考えれば。

○前田智永委員長　　そういった面でいえば、私がここに持ってきているのが、広島県の女性の健康課題についての資料で、以前、違う会で近藤議員と勉強をしいに行かせていただいたのですが、休養とメンタルヘルスの項目で、女性が育児や介護をしている中で、自分の健康とか、休養をなかなか意識してとれない。先ほど言った口腔ケアについても、高齢者だけではなく、そういった若い女性とかも歯医者に行く時間すらないという方が非常に多いそうです。そういったところを何とかできないかなと個人的には思っているのですが、口腔ケアのことがどこまで、どのようにできるのかということはありませんけれども、先ほど近藤委員が言われたように、今、庄原赤十字病院の看護師の方が旧町をずっと回られて、サロンとか、しっかりと話をする機会を課として動かれているかと思えます。そういう動きもあったりするので、そこもしっかりと推進できるような体制ができたらいいかなど。サロンだけだと、高齢者だったり、日中に動ける人になってきます。もう少し間口を広げるという意味でも何かできないかなと思うので、これも研究してみましよう。岡野委員。

○岡野茂委員　　健康寿命は、基本的に多世代を対象とするという方向性で進めればと思います。今の話も、小学校のときからスポーツに親しむとか、あるいは口腔衛生に気をつける取組であるとか、この前一般質問をしましたけれども、2025年から2040年に団塊の世代が75歳以上になります。そこで高齢者の人口ボリュームがすごく膨らんでくるわけです。人口が減少するにもかかわらず、その世代はぼちぼち少なくなる状況なので、2025年は今年なので、そういう意味でも健康寿命の大事さ、多世代で取り組むようなことをいろいろ調査して、提案できればいいなと思います。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　提案の中で、例えば、健康まつりとかに歯医者の方が口腔ケアのことで来てくださいます。ところが、行く人が少ない。あの先生には見てほしくないとか、行きつけの歯医者なら行くのですが、そうではなかったらなかなか行きにくい。その行きにくさをどうすれば解消できるのかなと思います。それと、歯医者に行く結構高い。治療費が高かったら若年層もなかなか行きにくい面がある。65歳から70歳くらいの方だって、ある程度経済的に余裕がないと、それこそ、歯を入れたほうがいいのかとか25万円ですとか言われても困るでしょう。定期検査に行っても結構かかるわけです。4、5千円かかる。そうすると、それをどのように解消できるのかな。歯の治療が高いことがすごくネックになります。見ていただいて、ここに虫歯があると、その次どうするのかと。インプラントも高いですね。歯は高くつく。それがすごくネックになっているのをどうするのか。乳児からの歯磨きですと、そこに行き着いたらそれ以上のことはないのですけれども。認知症の脳を見たら歯から脳に菌が行った事例もありますから、口腔ケアは非常に大切だと分かる。高いのがネックということが現実としてあるので心配していますけれども。

○岡野茂委員　　余分な話なのですが、夕張市が財政破綻して総合病院が駄目になったのです。ではどうするかということで、小さいけれども診療所をすることになって、診療所でどうやって総合病院的なことをカバーするのかということになったときに、口腔衛生に取り組むことになったのです。これが、結構成果が上がっていて、そんなに変わらないのです。昔、それに取り組んだ医師と関わっているいろいろ話を聞いたのですが、健康の基本は口の中の衛生だと聞いたので、健康の基本として、誰でも取り組める日頃からの要素で、シルバーリハビリ体操も大事なのですが、口腔衛生も積極的にしていこうと。私は、社会福祉協議会に少し関わったときに、歯医者嫌でやめられて庄原で働

きたいという人に社会福祉協議会で働いていただいていますけれども、彼女のテーマは口腔衛生なのです。なので、我々の地域のサロンでは、口腔衛生で来ていただいて、口の中をきちんときれいにしましょうという話は結構しやすいので、ウケるので、このテーマにもう少し口腔衛生を、誰でもできるのでしようというのが入ってくるといいかなと。

○前田智永委員長　　本日、皆様から様々な御意見を頂きまして、非常に多岐にわたる話になりましたので、ここからまた絞っていかねばなりません。まず、今日のキーポイントとしまして、場所としては、県外の取組なのか、県の話を書くのもいいのではないかとということもありました。これは調整をすればできることなので、県には話を聞きたいと思えますけれども、県となると、市とはまた違って非常に課が分かれますよね。そういったこともしっかり絞った上で行かないといけないと思うので、これももう少し議論が必要かなと思います。市内の取組を見ようではないかと、現場を見ようというところですね。対象としては、子供、若者、女性、高齢者、どこにも関わるような話だったかなと思います。それから、まずはデータをしっかりと見て絞っていかないかという話があったと思います。多岐にわたるけれども、そうは言っても絞るとすれば、本日伺った話ではシルバーリハビリ体操、何らかのポイント付与、農業との連携、口腔ケア、医療費も含めてこういった支援が何かできないかということだったかなと思いますので、またさらにここから絞りつつ、皆さんで情報を集めて、また協議をしていきたいと思えます。これはすぐに、本日もどこに行こうということにはならないと思えます。回を重ねながらしっかりと皆さんと協議をしていきたいと思えますので、引き続きデータ等を集めていただきますよう、よろしくお願いたします。では、この程度でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

---

## 2 その他

○前田智永委員長　　それでは、協議事項2点目、その他として、先日皆さんにお示ししたと思えますが、議案第106号、議案第107号の報告書を見ていただいて、皆様に文言修正等も含めて確認していただいて、何かあれば言ってくださいという体制だったかと思えます。今のところこれが最終的なものになろうかと思えますが、これで報告する方向で進めてよろしいでしょうか。簡単な文言修正といったことは、まだ少々日程がありますので早めに言っておいただければ修正できるかなと思います。またしっかりと見ていただいて、報告を迎えたいと思えます。あしたなので今日中には言ってください。よろしいでしょうか。近藤委員。

○近藤久子委員　　委員長が読まれるときに、質疑を終えての前で、「他の保育所についても、実施が可能になれば」の次のセンテンスが少し長いのですが、読みにくいのですか。大丈夫ですか。「実施保育所を拡大するのかを検討する必要があると考えている。」というのは。

○前田智永委員長　　議事録から抜き出して、それでもかなり短くはしてきたのですが、この程度ならいいのかなと。

○近藤久子委員　　読みやすければ別にどうということはないです。

○國利知史委副委員長　　考えている、を抜いてもいいのではないですか。

○近藤久子委員　　他の保育所についても、実施が可能になれば、拡大するのかを検討する必要がある。実施保育所をもう1回入れないといけないのかどうか。どうなのでしょう。そこは考えて言いやすい

ように。

○前田智永委員長 実施が重なるからということですね。

○近藤久子委員 実施が可能になれば、実施保育所を拡大する検討する必要があると考えている。

○前田智永委員長 ここは考えてみます。その他、皆様からありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長 それでは、本日の教育民生常任委員会を終了します。

午前10時34分 散 会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長